

<b>授業科目名</b>	<b>Ⅱ 暮らしと経済</b> (消費生活アドバイザー(消費生活相談員)資格準備講座)		
<b>担当者名</b>	伊ヶ崎大理、沼田夫左与、安藤 昌代(実務家教員) * 全12回授業を担当		
<b>開講年度学期</b>	2024年度 後期	<b>授業形態</b>	遠隔授業
<b>単位数</b>	2	<b>授業区分</b>	週間授業
<b>授業の概要</b>	消費生活アドバイザーは、消費者と企業や行政の架け橋として、消費者の提案や意見を企業や行政等へ提言し、苦情等に適切なアドバイスができる人材に与えられる資格です。合格時には国家資格の消費生活相談員資格も同時に付与されます。有資格者は国・地方公共団体の相談窓口や、企業や業界等の顧客対応部門・マーケティング部門等で幅広く活躍しています。当資格は試験科目数が多く、内容も多岐に渡っています。そこで本学科では、前期に「消費者問題・行政・法律」と「生活知識」、後期に「経済系」の2分野にわけて配し、1年間の学習を通して資格取得に向けてポイントを絞った学習を進めます。資格取得に限らず、消費生活知識を体系的に知ることができ、必要に応じ前期のみ、後期のみの受講も可能です。なお、講義は、科目毎に、家政経済学科教授や指導経験豊富な専門の講師がわかりやすく解説します。		
<b>授業の到達目標 及びテーマ</b>	到達目標: 経済指標などの基本的な知識や身近な生活経済の諸問題を体系的に理解し、私達の暮らしが経済社会と密接にかかわっていることを理解します。市民の視点で経済社会とのかかわりを考察できる「賢い・自立した生活者」になることを目指します。 テーマ: 経済データの見方、経済の仕組みや時事的動向、少子高齢社会を受けた家計構造の変化や金融資産管理、全世代型社会保障のあり方、地球環境問題や持続可能社会形成に向けて消費者や企業が取り組むべき視点等、消費生活を多面的な視野から学びます。		